

(仮称)石狩市都市骨格方針素案説明会

令和元年 8 月 20 日(火)18:00～19:30 八幡コミュニティセンター

参加者 6 名

【質問】

立地適正化計画が適用される区域について、八幡までは区域に入っているが、私達の住んでいる緑ヶ原地区は区域から外れており、居住誘導区域の設定にいたっては花川地区が中心となっている。

これらの区域に入っていない地域を、市はどのようにしていこうと考えているのか。

【回答】

立地適正化計画は、都市計画マスタープランの高度化版という扱いになっており、これまでの都市計画は市街地の拡がりについてルール化し、拡大を抑えるような役割がありましたが、現在は人口が減少傾向にあることから、コンパクトなまちを形成するという国の方針により、今まで外への拡がりを抑えていたものを、逆に内側へと人口密度を保つことで、内側のインフラを維持していくという計画になっています。

法律により立地適正化計画の適用範囲は都市計画区域内となっており、居住誘導区域を花川方面に設定しているのは、区域設定のルールを設け、DID地区(人口集中地区)で1ヘクタールあたり40人、または1平方キロメートルあたり4,000人の人口があるか、また、20年後も達成できているかを目安としています。

本町地区などは、石狩発祥の地という歴史的背景や大切な遺跡、自然環境があることから「環境居住エリア」として設定しており、緑ヶ原地区についても立地適正化計画の区域から外れてはいますが、こうした環境を長く守っていけるよう市として考えていきます。

【質問】

過疎に拍車がかかるような制度ではないのか。

【回答】

市では主に市街地を中心に、道路・上下水道などの施設について費用をかけ維持しなければならず、人口が減少すると施設維持のための市民負担が大きくなる、市のサービスが低下するなどの恐れがあります。

このことから、居住誘導区域を中心に人口が減らないよう、例えば新港地区の就業者2万人のうち、市外に住んでいる7割くらいの方々に花川地区などに住んでもらうなど、効率よく人が集まるところの行政サービスを保ちながら、他の地区に対してもできる限りのことをしていくという考えです。

効率よくインフラ維持をしていけませんと、市街地も郊外も共倒れになってしまう恐れがありますので、メリハリをつけた、なるべく市街地で無駄のないお金の使い方をしながら他の部分に必要な分を充てる、という考えであり、拍車をかけるとは考えておりません。

【意見】

バスは1日に何本かのみ、病院もスーパーもなく、今回、立地適正化計画の区域にも緑ヶ原地区が入っていないので、なおさら状況が悪くなり、年をとって運転ができなくなるとここから出て行かなくてはならないという現実がある。

新港地域で働いている2万人のほとんどが札幌から来ているので、その1割でも石狩市に住んでもらうと人口の減り方は変わるので、良い方法を考えられないだろうか。

そもそも、市職員の半分近くが市内に住んでおらず、市外居住者の住居手当や通勤手当を無くすなどの縛りもないというところから、行政のあり方がおかしいのではないか。

郷土愛と言いながら定時になったら札幌へ帰ってしまうというのはおかしいのでは、と私個人は思っている。

【回答】

市職員の半数ほどが市内に住んでいないということにつきましては、機会のあるごとに市内居住を促しており、市内に住む職員の数が増えてきていますが、それぞれの職員の暮らしもありますことから、長い目で見ていただければと思います。申し訳ありません。

立地適正化計画の区域設定については、前回、1月の説明会の際に、1日にバスが数本しかなく病院へ行く時間に間に合わない、若しくは時間が余ってしまうということや、この八幡地区や右岸地区に目が届いていないのではないかと、というご意見をいただき、この計画にどのように反映することができるか、色々考えながら素案を作成しました。

交通の部分については、14ページの総合交通体系の方針の中で、交通空白地に関し記載しており、別計画である「石狩市地域公共交通網形成計画」においても、色々な取り組みができないか、別途検討する方向ですので、できるだけ地域の課題を踏まえた中で優先度を決め、市としても精一杯取り組んで参ります。

【質問】

昔は、例えば生振に飛行場ができるとか、モノレールで市役所あるいは新港までつなぐなどの夢があったが、この計画を見た限りではそういう夢が全く感じられない。

極端な話だが、北広島市にはボールパークができるのに、同じようなまちの規模で自然が豊富にあるにも関わらず、石狩市には大きなプロジェクトはないのか。

【回答】

この計画を策定していく中で、新港地域が最近、再エネの集積地になっていたり、LNG関連の発電所ができたり、自前でエネルギーをまかないブラックアウトにも対処できる地区をつくるなど、企業の目が向いてきていると感じており、これもまた一つの夢だと思っています。

現在、新港地区は土地利用の上で余っている土地もあり、そこへ新しい企業が来て、また働く人が来て、働く人が石狩に住み、それで市がまた発展していくと考えます。

かつての物流一辺倒の石狩湾新港よりも夢があり、これから人口が減少する中でも石

狩市にはエネルギーがあると感じており、新港地区の発展を柱とし、この計画の目指す都市像を「北海道を支える国際物流・エネルギー港湾都市」としております。

また観光面では、道の駅を中心に取り組んで参ります。

【質問】

現在、ホテルを建築中であり、また、かなり大きいイオンの物流センターができることで、そこで働く人はすごい人数になると思われる。

そこに目を向け、企業に対して市が優遇措置を行い、働く人たちが石狩市に住んでもらえるようにするのが、人口密度を上げるためには手っ取り早いのではないか。

【回答】

企業への税の減免などの優遇措置は既に行っており、企業の進出が進んでいます。

また、札幌圏の中で唯一港があることも大きな要因であり、かつては船を使用して運搬する業種があまりなかったのですが、運搬単価が安いというメリットがあり、港があるという強みがここに来て発揮されてきているのかなと思います。

【質問】

自分は元々石狩出身ではないので、石狩市は他市と比較しメディアの使い方が下手だと思うのだが、新聞の石狩・当別版はほとんどが札幌のことで、道の駅も当別の方が載っている。

また、雄冬岬までが石狩市であるということを知らない市民がいっぱいいると思われ、そのようなことは職員が石狩市民じゃないから起きているのではないか。

【回答】

その点については、少なからずあるのではないかと思います。

【質問】

何年か前、冬場に八幡から厚田に向かったの道路がよく通行止めになっていて、市に掛け合ったら、「国道なので」とのことであつたがどうなっているのか。

また、防雪柵について要望書を出しているのだが。

【回答】

申し訳ありません。

その後、予算がつき、防雪柵が伸びてからはそれほど大きな通行止めは発生していない状況です。

【市説明】

平成13年の当計画の1次策定時、延べ900人もの方々が参加し、日曜日にも50人くらいの方々がりにくるに集まりワークショップを開催し、それを2年間で12回ほど行った

ほか、市民協議会を立ち上げ、冊子をつくる作業も行いました。

そういう意味で、そのときの思いをこの計画に引き継ぎ、今から18年前の市民の方々の考えが、まさにそのまま今に生きているということです。

それらの考えを活かした上で、元気な地域をつくらなければならないということで、花川周辺については人口密度の基準で居住誘導区域に設定できるのですが、人口密度の話になるとどうしても本町や八幡地区は区域の設定できなくなります。

そういうルールの中で、石狩市としては市全体で発展していくことを考えていかななくてはならず、そうすると、やはり交通の問題が出てきます。

花川地区へとつなぐ交通をどう形成していくか、中央バスの路線が次々と短くなってきて、かつて浜益まで行っていたのが、今は厚田で終わっており、おそらく、このまま人口が減っていくとまた路線は短くなるのでは、と思います。

まずは路線が短くならないように、それぞれの地域の人口を減らさないように頑張るということを、まずは第一にやらなければいけないことだと考えています。

それでもどうしても路線バスが減ってしまう、廃止されてしまうとなってしまうたら、地域をつなぐ交通の確保を市は考えなくてはならないと考えます。

現在、国ではコンパクトプラスネットワークという言葉を使っていて、まちをコンパクトにしていき、地域をネットワークで結ぼうという考えですが、既にこの右岸地区、高岡や生振地区はバスがない状況であり、市役所の他部局において、それらのことについて考え始めていますので、なんらかの提案が出てくるのではないかと考えているところです。

【意見】

前回の説明会でも出ていた話だが、前市長時代に市税を都市に集中するのではなく、交通に注ぐのも行政の仕事だということを言っており、例えばこの地区にバス以外の交通網ができると、中央バスとの兼合から、かえってマイナスになるという考え方もあるだろうが、ゆくゆくは機会を見てそのことを言っていこうかと思っている。

【回答】

民間バス会社が赤字路線を抱えている中で、そこに市が税金を投入して新たな交通網を、というのは今のルール上は難しく、中央バスも含めバス事業者、タクシー事業者、市、地域の代表など含めた協議会の中で新たな交通網を設けるか設けないかという議論をすると、路線バスの廃止という話につながり兼ねませんので、まずは民間のバスが維持してくれるのであれば、それを活かした上でお互いに相乗効果があるような路線、同じ重なりではなく、相乗効果でつなげるようなネットワークを考えていかなければならないと思います。

【質問】

市の空き家対策について、新港地域の労働者のうち、1割の2,000人でも、我々の

地域も含め市に定住してもらえれば、それだけでも大きな税収になるので、もっと制度を拡充して欲しい。

【回答】

来年度に向け、空き家対策をもう少し工夫ができないか検討しているところで、予算審査と議会を経た後の4月になってからの話ではありますが、課題は今の耐震基準に対応していない空き家です。

昭和56年以前に建った住宅について、必ずだめということではないのですが、中には今の耐震基準を満たしていないものもあるので、耐震化を進めなければいけないと考えています。

築年数が相当経っている空き家は、なかなか住むまでには至らないので、空き家を取り壊して建替える場合の助成制度も検討しており、市外から新しい人や若いファミリー世帯に住んでもらえる制度にしたいと思っています。

石狩市に住んでもらうために、もっとアピールしていかななくてはならず、この本町、八幡地区につきましても、石狩川が目の前に流れ、魚釣りなどもできる環境がありますので、花川地区だけではなく、アピールしていきたいと思います。

(了)